

東京2020大会の成功、 そして持続的な発展のため 「交通環境の充実が重要」

小池百合子

東京都知事

森井博

『自転車・バイク・自動車駐車場 パーキングプレス』誌 発行人

【プロフィール】

小池百合子(こいけ ゆりこ)
1952年7月15日 兵庫県生まれ。
1976年10月カイロ大学文学部社会学科卒業。1992年7月参議院議員、
1993年7月衆議院議員、2003年9月環境大臣、2004年9月内閣府特命担当大臣(沖縄及び北方対策)兼任、2006年9月内閣総理大臣補佐官(国家安全保障問題担当)、2007年7月防衛大臣、2010年9月自民党総務会長、2011年10月予算委員会理事、2016年7月東京都知事当選



TOKYO 2020
PARALYMPIC GAMES

みんなの輝き、
つなげていこう。

Unity in Diversity



TOKYO
PARALYMPIC GAMES

遂に2020年が幕を開けた。東京が世界の注目を集める今年は、我々パーキング業界としても重要な一年になる。その年頭にあたり、特別ゲストとして小池百合子都知事をお迎えした。およそ7か月後に迫った東京2020大会、そしてその先へ向けて、小池都知事はどのような東京をつくっていくのだろうか。

(対談収録:2019年11月20日)

観光バスの駐車対策を 広域的視野で促進

森井 いよいよオリンピックイヤーとなりました。今年、東京を訪れる外国人旅行者はどのくらいを見込まれていますか。

小池 近年、訪日外国人旅行者は増加の一途をたどり、昨年度は3119万人と過去最高となりました。東京都を訪れた外国人旅行者も昨年度は1424万人と、こちらも過去最高となっています。都では、オリンピック・パラリンピックが開催される今年には2500万人を目標としています。

森井 それに伴い、都内をめぐる観光バスも増えそうですが、観光バスの駐車場不足が問題になっている地区もありますね。

小池 ここ数年、観光客の移動手段として観光バスの利用台数が急増している状況です。駐車場が不足する地区では、地域の実情を踏まえ地元自治体が主体となって対策を行う必要がある一方、観光バスは都内各地を巡回することから、広域的な視点に立った対策も必要です。このため、観光バスの駐車場不足が懸念される新宿、浅草、秋葉原、銀座の4地区について駐車状況等の調査を行うとともに、運転手に対するヒアリングを実施し、駐車場の利用意向について確認を行いました。これらの結果を踏まえ、昨年3月に「観光バス駐車対策の考え方」を策定し、地元自治体に周知することで対策を促進しています。また、駐車モラル向上の環境づくりを進めるため、国、警視庁及び地元自治体等と連携し、駐車場マップを配付するなど

の観光バスマナーアップキャンペーンを実施しています。

森井 駐車モラル向上は大変重要だと思います。駐車場整備についての地元自治体への具体的な支援策はどうでしょう。

小池 「観光バス駐車対策の考え方」では、観光バス駐車場整備に対する補助制度の活用や既存駐車場等の有効活用策を示しています。また、学識経験者や関係機関で構成する「観光バス駐車対策分科会」において最新の取り組み状況等の情報共有を行うなど、区市町村が取り組む観光バスの駐車対策を支援しています。

交通マネジメントによって 円滑な大会輸送と 都市活動維持の両立を目指す

森井 次にお聞きしたいのが、東京2020大会期間中の交通マネジメントです。どのような対策を進められていますか。

小池 大会の成功に向けては、円滑な輸送の実現と、都市活動の維持との両立を図ることが非常に重要であり、関係機関が協力して適切な交通マネジメントを行うことが不可欠です。交通マネジメントは、多くの企業や市民の理解と協力を得て交通量の抑制、分散、平準化を図る「交通需要マネジメント」(TDM)、道路交通インフラを活用しながら交通の需給関係を高度に管理する「交通システムマネジメント」(TSM)、鉄道の輸送力確保等により安全・円滑な観客輸送を実現するための「公共交通輸送マネジメント」を3つの柱として実施します。さらに、道路交通では料金施策による首都高速道路の流動性確保策も示しています。



①銀座で行われた観光バスマナーアップキャンペーン ②駅構内などに掲出されているスムーズビズポスター。東京2020大会時に多くの人々が集中する東京をスムーズにするために、都民の協力が重要であることを示す

森井 大会本番に向けて、様々な取り組みが行われているのですね。

小池 東京2020大会では、選手・大会関係者による交通需要の増加に加え、大会開催に伴う物流や、誘発交通の増加が予測されています。そこで、東京都と東京2020組織委員会、国は、交通需要を低減する取り組み「2020TDM推進プロジェクト」を実施しています。大会時に対策を何も実施しない場合、どのような交通状況になるかを「大会輸送影響度マップ」としてホームページで公表し、通勤時間をどうずらせば従業員の負担が減らせるか、商品の配送ルートはどう計画すれば効率的かなど、企業活動への影響を最小限に抑えるために活用していただきたいと考えています。加えて、大会に向けたTDMの取り組みに関するコンサルタント派遣やテレワーク導入に関する専門アドバイザーの派遣など、様々な支援策も用意しています。また、東京都では、東京2020大会の交通混雑緩和に加え、企業の生産性の向上にもつなげるため、TDMと、テレワークや時差Biz等の取り組みをスムーズBizとして一体的に進めており、これにより新しいワークスタイルや企業活動の東京モデルの確立を目指しています。

森井 昨年(2019年)夏には、東京2020大会を見据えた交通混雑緩和のテスト期





間を設けられました。

小池 交通混雑緩和に向けた取り組みを広く実施していただく「スムーズBiz推進期間」を設定し、時差出勤やテレワーク、業務に関連する配送の工夫などに取り組みました。そのうち7月22日～26日の1週間をチャレンジウィークと位置づけ、国と都が呼びかけるテレワークの実践、都が進めるスムーズBizなど様々な取り組みのピークを合わせ、効果を測定しました。また、TSMの試行として、高速道路の本線料金所の流入調整や競技会場等に近接する入口の閉鎖などを行いました。これらを通じて得た知見をもとに、今後の取り組みを具体的に検討してまいります。

森井 2019年はラグビー・ワールドカップ

が盛り上がりました。そこで得た教訓も生かせるのではないのでしょうか。

小池 そうですね。東京スタジアムでは開幕試合を含め8試合が行われましたが、おかげさまで毎試合ほぼ満員の観客にご来場いただいた中、大きな混乱なく終えることができました。背景として、事前にテストマッチを3回実施し、それを踏まえて鉄道やバス事業者等、関係機関と入念に調整したことがあると思います。その結果、「鉄道の増発や最寄り駅への特急・準特急の臨時停車」や「近隣4駅からのシャトルバス」「車いすを使用する観客向けのおもいやりシャトルバス」の運行などを実現できました。関係機関と連携しワンチームとなって準備を進めることが、大会成功のカギとなると考えています。

自転車推奨ルート等の整備を進め、観光にも自転車を活用

森井 続いて東京都の自転車シェアリングについてお聞きします。東京2020大会に訪れる観光客の移動手段としても期待されますが、さらなる拡充、利便性向上のためにどんな支援をされていますか。

小池 東京都は、環境にやさしい交通手段である自転車の利用を促進するため、自転車シェアリングを推進しており、事業主体である区市町村に対して、自転車

等の購入への財政支援など、その取り組みを広くサポートしています。現在、広域相互利用に参加する自治体は10区まで増え、利用件数も順調に伸びている一方で、自治体からはサイクルポートの設置場所の確保が課題という声も聞きます。都としては引き続き都用地の活用等によるサイクルポート設置場所の確保の支援などを行ってまいります。

森井 自転車シェアリングをさらに拡充していくためにも、自転車通行空間の整備が不可欠と考えます。整備の進捗状況はいかがでしょうか。

小池 平成24年に策定した東京都自転車走行空間整備推進計画で優先整備区間154kmを設定し、整備を進めています。東京2020大会開催までに優先整備区間等120kmを整備し、計画策定時点の整備済区間112kmと合わせて232kmを確保します。なお、平成30年度末時点で約208kmが整備済みです。

森井 自転車推奨ルートの整備も進められていますね。

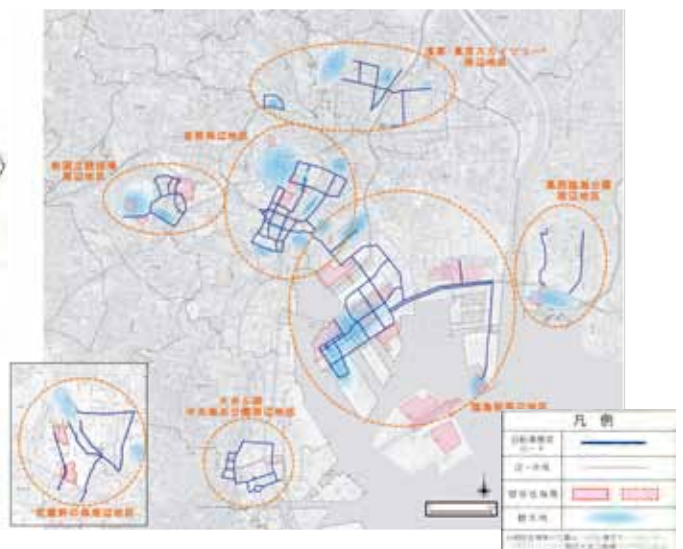
小池 はい。東京2020大会の競技会場や主要な観光地の周辺7地区において、自転車がより安全に回遊できるよう、国道、都道、区市道等の自転車が走行しやすい空間を連続させ、ネットワーク化を図るため、平成27年度に約200kmの自転車推奨ルートを設定しました。なお、新たに創設した区市への補助制度等により、

① 東京都自転車走行空間整備推進計画【概要版】
＜優先整備区間＞



① 東京都自転車走行空間整備推進計画に基づき、自転車利用の安全性や快適性を向上させるため優先整備区間154kmを設定。東京2020大会開催までに、平成23年度末時点の整備済区間112kmと合わせて232kmを確保。平成30年度末時点で約208kmが整備済 ② 東京2020大会会場や主要観光地の周辺7地区で、国道、都道、区市道等の自転車が走行しやすい空間を連続させ、ネットワーク化を図る約200kmの自転車推奨ルートを設定

② 自転車推奨ルートの整備エリア(7地区)



技術面に加え財政面の支援を行って区市道の整備を促進し、平成30年度末時点で約112kmが整備済みとなっています。

森井 今後、自転車通行空間やルートを拡充していくための課題は何でしょう。

小池 まずは国道や区市町村道等とのネットワーク化の促進ですが、限られた道路幅員の中での自転車通行空間の確保、沿道店舗の荷さばきや路上駐車への対応、接続する道路の管理者との調整など、様々な課題があります。引き続き国や区市町村などとの調整を図るとともに、交通管理者との協議を重ね、自転車通行空間整備を推進していきます。

放置自転車対策に成果 バイク駐車場不足も解消へ

森井 都内の駅前放置自転車等の台数が過去最少の約2.7万台となったという嬉しいニュースがありました。

小池 放置自転車の台数がピークであった(約24.3万台)平成2年当時は、駅前への乗入台数に対して収容能力が大幅に不足していました。その後、区市町村等の努力により自転車等駐車場の設置が進み、平成12、13年頃を境に放置台数は順調に減少し、ピーク時の9分の1まで減少しています。平成30年の調査では、都内659駅のうち駅前に100台以上の放置自転車がある駅の数も、ピーク時の366駅から79駅まで減少しました。

森井 大きな改善です。その要因はどこにあるのでしょうか。

小池 いわゆる自転車法に基づき、区市町村による放置防止に関する条例制定が進んだことが大きいと思います。自転車駐車場の整備に併せて放置禁止区域を広げ、撤去を推進しました。また、都内の自転車等駐車場の設置数は15年連続で増加しています。さらに、毎年10月下旬に、都、区市町村、警視庁、鉄道・バス事業者、商工業団体など関係機関で構成する推進委員会のもと、「駅前放置自転車

クリーンキャンペーン」を実施し、駅頭活動や駅・車内でのポスター掲示など多様な広報媒体を活用して啓発に努めていることもその要因に挙げられます。

森井 成果は確実に上がっています。今後の目標と課題を教えてください。

小池 平成28年4月改定の東京都自転車安全利用推進計画において、駅前放置自転車を今年(2020年)中に2万台以下にする目標を掲げています。今後は、都心部やターミナル駅周辺の繁華街における自転車等駐車場の利用促進など、放置行動の防止が課題です。地元区市と連携し、より効果的に都民の皆様へ啓発活動をしていくことが必要と考えています。

森井 ところで、知事はキャスター時代にバイク通勤されていたとことで、バイク駐車場問題に注力されていますね。

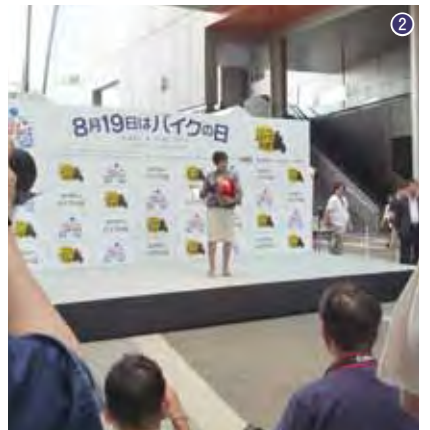
小池 駐車場整備は基本的に区市町村が地域の実情に応じて取り組んでおり、都は民間の開発に合わせた整備への働きかけや補助制度の拡充等による支援を行っています。バイクを利用する方々が快適に通勤できるよう、都市開発などの機会を通じて働きかけを行っており、昨年度は約900台分の駐車場整備を開発計画に盛り込みました。さらに、「都内オートバイ駐車場MAP」の配布や都のホームページで駐車場検索サイトを周知することで、バイク利用者への情報提供と利



用促進を図っています。都としても整備促進のため、昨年末に中野駅前においてEVバイクの充電設備も4基備えたバイク駐車場を整備したところです。今後も電気や水素を使ったゼロエミッションの新しいバイクが出てくると思います。バイクライフを楽しんでいただくためにも、駐車場整備を一層推進して参ります。

働き方改革と合わせて 通勤ラッシュ緩和に取り組む

森井 先ほども「スムーズビズ」について触れていただきましたが、都は東京2020大会をきっかけに通勤ラッシュの



① 昨年10月下旬に実施した「第36回駅前放置自転車クリーンキャンペーン」のポスター ② 昨年8月19日の「バイクの日」イベントのトークショーに登場 ③ 昨年夏、都内で初めての朝の交通手段として船を利用した社会実験を実施。これは朝潮運河での乗降の様子

緩和に取り組まれていますね。内容をお聞かせください。

小池 はい。鉄道の混雑緩和にはハード・ソフト両面から取り組む必要があり、都は平成29年度より、オフピーク通勤を促進するソフト施策である時差Bizに鉄道事業者や企業等とともに取り組んでいます。昨年から、スムーズBizとして、時差Bizと、東京2020大会期間中の交通混雑緩和に向けたTDM、働き方改革に資するテレワークを一体的に進めているところです。実施に当たっては、企業等には時差通勤やテレワークの実施などをお願いし、鉄道事業者にはオフピーク通勤者に対する特典の付与、混雑する時間帯や列車を知らせる「混雑の見える化」など空いている時間帯へのシフトにつながる取り組みの実施をお願いしています。開始時点では320社だった参加企業は、現在1,400社を超えました。また、一昨年夏の調査では、電車通勤者の75%が「時差Bizを知っている」と回答するなど、一定の認知度を得ています。

森井 多くの企業の協力もあり、時差Bizは確実に浸透してきていますね。

小池 この夏の「スムーズBiz推進期間」にご参加いただいた企業からは、再度スムーズBizに取り組む機会を望む声や、台風時の計画運休の際の業務継続にも役立つとの声をいただきました。そこで、

大会半年前の時期を捉え、今年1月14日から31日まで、「冬のスムーズBiz実践期間～やってみよう!～」を設けました。柔軟な働き方や快適な通勤を幅広い方々に体感していただくことは、多様な働き方が広がる大きな契機となると考えます。大会時の混雑緩和はもとより、企業の人材確保や生産性向上につながり、多様なワークスタイルが大会のレガシーとして定着するよう、取り組みを進めてまいります。

森井 舟運も取り組みのひとつですね。

小池 東京の水辺空間の魅力を引き出すため、舟運を活性化し、身近な観光・交通手段として定着することを目指しています。その一環として昨年夏、スムーズBizの集中取組期間の平日8日間に社会実験を実施しました。朝の通勤時間帯に15分間隔で運航し、所要時間は30分から40分程度、全席着席で日本橋と晴海の朝潮運河間を双方向にノンストップで結ぶというものです。延べ2,800名を超える方に参加いただき、アンケート調査の結果では社会実験について「満足」「概ね満足」の回答が8割以上で、今後の利用動向については「利用する」「たぶん利用する」が6割近くを占めました。一方、船舶への屋根の設置、船の速度向上などの要望がありました。許容できる運賃や希望する目的地についても調査を行っており、これらのアンケート結果から、実現に向け

て様々な感触が得られたと考えています。

森井 こうした取組にも関連して、島しょ地域の振興、インターネット環境の整備も進められていると聞きました。

小池 テレワークは、ICT(情報通信技術)を活用した時間と場所にとらわれない働き方です。都では普及啓発に加え、テレワークができる環境整備にも支援を行っています。例えば、島にインターネット環境が整ったサテライトオフィスができれば、都内企業の本社から離れた島しょ地域でも、変わらず仕事ができます。また、雄大な自然にめぐまれた島しょ地域には、実に多様な観光資源が存在します。最近では、テレワークを活用しリゾート地等で普段の仕事を継続しつつその地域ならではの活動を行う、「ワーケーション」という新たな働き方も聞かれます。こうした動きが雇用創出や将来の定住につながり、雄大な自然の中で時間と場所にとらわれない働き方が実現できれば、まさに究極のテレワークといえるのではないのでしょうか。

スムーズBizやバリアフリーをレガシーとして残したい

森井 これまで都知事として様々な施策を進められてこられたかと思いますが、特に交通に関連した実績を挙げていただけますか。

小池 東京が持続的に成長し、全ての世代が生き生きと活躍していくためには、誰もが快適に移動できるよう、都民の足となる交通システムのさらなる充実を図っていくことが重要です。特に鉄道ネットワークの充実に向け注力してきました。国の交通政策審議会の答申において事業化に向けて検討を進めるべきとされた6路線を中心に、鉄道事業者などの関係者と連携し事業費の精査、採算性などの課題について検討を進めており、2018年には事業の裏付けとなる財源を確保するため新たに基金を設置しました。



①②豊かな自然に恵まれた東京島しょ地域。インターネット環境の整備、活用によってこれらの場所でも仕事をすることが可能だ。写真は新島(いずれも©(公財)東京観光財団) ③④都はICTを活用して時間と場所にとらわれないテレワークの普及啓発、実現しやすい環境整備の支援を行っている(いずれも提供 東京テレワーク推進センター)

特集

他にも、スムーズビズの推進、舟運の活性化、BRTを実績として挙げたいと思います。BRTについては、都心と開発が進む臨海地域を結ぶ新たな交通手段として、東京2020大会前の先行的な運行開始に向け取り組んでいるところです。

森井 先ほど、スムーズビズの取り組みを定着させ、東京2020大会のレガシーとしたいというお話がありました。他にもレガシーとして残したい交通に関連する施策はありますか。

小池 鉄道駅のバリアフリー化に取り組んでいます。現在、競技会場周辺の駅や空港アクセス駅等において、エレベーターの増設や大型化、ホームドアの整備を促進しています。また、昨年9月に「鉄道駅バリアフリーに関する優先整備の考え方」を取りまとめました。今後はこれに基づき、バリアフリー化の取り組みを促進し、障がい者や高齢者、子供連れの方など、誰もが快適に滞在し、スムーズに移動できるまちを実現していきます。

森井 最後に小池都知事から、パーキング業界に対してのご提案、リクエストなどをぜひお聞かせください。

小池 東京2020大会の成功に向けては、



小池都知事は都の多岐にわたる取り組みについて、多様な資料を交えて説明してくださいました

安全で円滑な大会輸送の実現と、都市活動の安定との両立を図ることが非常に重要です。このため、大会時における交通マネジメントの推進に併せ、一般道における道路交通対策のひとつとして、空き駐車場を探して移動する「うろつき交通」による交通渋滞等の抑制に向けて、会場周辺の駐車場対策等の取り組みについて検討しておりますので、大会の成功に向けて、パーキング業界の皆さまにもご協力をお願いしたいと思います。また、自

動二輪車駐車場、自転車駐車場、荷さばき駐車場や観光バス駐車場等の不足が見られる地域もあり、都としても附置義務の緩和による自動車駐車場の活用や補助制度による整備支援等に取り組んでおります。パーキング業界の皆さまには引き続き駐車場の整備に向けて積極的に取り組んでいただきたいと思います。

森井 かしこまりました。本日はお忙しいところ多様なご回答をいただき、誠にありがとうございました。 **PP**

【パーキングプレス 発行人】 **森井 博** のプロフィール

- 一般社団法人 日本パーキングビジネス協会 理事長
- 一般社団法人 自転車駐車場工業会 会長
- 一般社団法人 日本シェアサイクル協会 専務理事
- 東京京橋八重洲ライオンズクラブ 会員
- 六本木男声合唱団 団員
- サイカパーキング(株)、日本駐車場救急サービス(株)、モーリスコーポレーション(株) 夫々会長

【略歴】 1938年(昭和13年)宮崎県延岡市生れ81歳。
 1957年(昭和32年)石川県立金沢泉丘高校卒
 1961年(昭和36年)東京商船大学(現東京海洋大学)卒
 1961~1979年 石川島播磨重工業(現: IHI)
 1979~1991年 東芝
 1991年~ 現職

【趣味】 現在: ゴルフ・車・自転車・歌・仕事
 過去: 水泳・野球・陸上競技・テニス

【遍歴】 ゴルフ: 毎週1回ホームコースでラウンド、週1~2回練習場通い。
 車: 毎日通勤で運転。中古車3台を大切に乗り廻す。
 自転車: 数台保有するも年齢を考え余り乗らない。
 歌: 六本木男声合唱団で毎週1回練習に励む。
 仕事: 健康のため平日は毎日9:00~17:00出勤。
 水泳: 小学校に入る前から泳ぎは得意。
 野球: 中学生までは本気でプロになるつもりであった。
 陸上競技: 高校時代 短距離、やり投げ、インターハイ2回出場。
 テニス: 元テニスのコーチでかなりの腕前(?)になるも、45歳時アキレス腱断裂で断念。

過去の対談ゲストの方は、WEBでご紹介しています

パーキングプレス 対談 で検索

または <http://www.parkingpress.jp/taidan/> にアクセス

対談記事のバックナンバーもご覧いただけます。

